

## トップアスリートと共に高原を駆け抜ける 第13回ひろしまクロスカントリー大会

 **REPORT 4**


▲白熱のトップ争い

参加者は30度を超える暑さの中、1キロ～8キロの起伏ある5つの芝生コースを、男女、年齢別36部門に分かれて記録に挑戦。コースの傍では力走する選手たちに

標高700mの緑豊かな道後山高原クロカンパークで8月18日、第13回ひろしまクロスカントリー大会が開催され、27都府県から過去最多となる2,382人がエントリーしました。

「いいペースだぞ!」「あともう少し!」などと、観客から多くの声援が飛んでいました。

走り終えた選手は「大自然の中、コースもきちんと管理されていて気持ちよく走れた。最高です」と汗を光らせていました。

会場では、実業団に所属する日本長距離界のトップアスリート12人の招待選手によるサイン会や地元農産物の出店、お楽しみ抽選会が行われるなど、終始笑顔がふれていました。



▲招待選手によるサイン会

## 農産物直売所「アグリくん」で販売学習 庄原実業高生が実習でつくった生産物を販売

 **REPORT 5**


生産から販売までの一連の流れを体験的に学習しています。

この「アグリくん」は、生徒たちによって運営され、毎週水曜日、16時～16時30分までの間で開店しており、季節に応じた旬の野菜やくだもの、草花、鶏卵、さらにはパウンドケーキやジャムなどの加工品を販売しています。

庄原実業高校では、農業教科の実習授業などで生産したさまざまな生産物を、校内に設置する農産物直売所「アグリくん」で販売し、

「アグリくん」を担当する農場長の金谷智範教諭は「生産物の販売によって、マーケティング力を身に付けたり、地域のお客さまとの接客が、マナーやコミュニケーションなどの社会性を身に付けたりするための学習の場になっている。地域の皆さんから喜ばれ、生徒たちも声を掛けられ励みにもなっている」と話しています。

今後は、期間限定の商品として、鶏もも肉のくん製やソーセージ、ベーコンも販売する予定です。



▲校内の直売所で販売学習する生徒たち

## 猛暑の中での熱い戦い 総領自治振興区グラウンドゴルフ大会

 **REPORT 6**


▲そうめん流しでおなかいっぱい

参加者は、中学生以上の部と小学生の部の2部門に分かれてプレー開始。当日は厳しい猛暑でしたが、親子や友人などと一緒に優勝を目指し、熱い戦いが繰り広げ

総領自治振興区主催のグラウンドゴルフ大会が7月28日、総領健康福祉センター横の芝生広場で開催され、町内から約30

られました。子どもたちの中には、張り切り過ぎてボールがコースを越えてしまうなど、悪戦苦闘する姿も見られました。

激闘を制した入賞者は豪華景品に大喜び。授賞式の後は、みんなでそうめん流しをして、互いの健闘を労いました。

参加者は「暑かったけど、賞品をもらえ、そうめんもおいしかった。また、参加したい」と満足そうに話していました。



▲集中、集中

## 会場一つに大合唱

南こうせつwithウー・ファン～心のうたコンサート～

 **REPORT 1**

「宝くじまちの音楽会 南こうせつwithウー・ファン～心のうたコンサート～」が8月7日、庄原市民会館で開催されました。

このコンサートは、地域に上質な音楽を提供し、明るいまちづくりや地域社会の健全な発展と住民福祉の向上に寄与することを目的とした、宝くじの社会貢献広報事業の一環として開催されているものです。

庄原市では、シンガーソングライターの南こうせつさんと中国古箏奏者の伍芳（ウー・ファン）さんによる2部構成のコンサートが行われ、800人以上が来場。

第1部の前半は、南こうせつさんが「妹」「夢一夜」など往年の名曲・ヒット曲を披露し、後半はウー・ファンさん

による古箏の演奏、二人の共演などが行われました。

第2部では、口北小学校の全校生徒、市内のコーラスグループ、個人参加の皆さんで構成された庄原市スペシャル合唱団116人が登場。こうせつさんとウー・ファンさんと一緒に、「故郷」「愛よ急げ」の2曲を元気いっぱい合唱し、会場から大きな拍手と歓声が上がっていました。



▲みんなで大合唱

## 10年目も熱く! 34アーティストが庄原に集結! SETSTOCK'12開催

 **REPORT 2**

西日本最大級の野外音楽イベント「SETSTOCK'12」が8月18日・19日の2日間、国営備北丘陵公園で開催され、2日間で約3万人の観客が詰め掛けました。

同公園での開催10年目となる今年は、初日、2日目とも17組ずつ計34のアーティストが出演し、園内に設けられた3つのステージで熱いライブを繰り広げました。

会場にはスポンサー企業のほか、庄原焼きなどの地元特産品を販売する店舗がズラリと並び、観客の胃袋を満たしました。

参加者は「自然の中で聴くのは最高!」「毎年楽しみにしている。来年が待ち遠しい」と興奮していました。



▲会場を埋め尽くす観客

## はっぱの日に樹木探検 第24回吾妻山グリーンラリー開催

 **REPORT 3**

今年で24回目を迎える吾妻山グリーンラリーが8月8日、『はっぱの日』に開催され、町内外から37人が参加しました。

このイベントは、吾妻山の大自然と触れ合うことを目的に比和地域で考えられたスポーツで、植物の名前を調べながら吾妻山を散策し、設定時間でのゴールを目指します。

当日は、比和自然博物館で樹木について学習した後、吾妻山へ移動し、約2.5キロのコースを設定時間2時間5分でのゴールを目指して、ゆったり探検。競技が始まると、樹木の名前を懸命に調べる親子連れの姿があちこち

で見られました。

参加した子どもたちは、葉っぱや幹の検索表を見ながら、「これは広葉樹!」、「こっちが常緑樹で、こっちが落葉樹」と、すっかり樹木に詳しくなってゴールイン。しっかりと吾妻山の大自然と触れ合いました。



▲どんな木かな



## 新企画続々 東城夜市に多くの人

 **REPORT 10**


▲超大型あんどん登場

今年で3年目となる「東城夜市」が7月28日・8月4日の2日間、東城市街地で開催されました。

初日は開始時間の午後6時頃からバケツをひっくり返したかのような大雨で、約90分遅れでスタートしました。

今年は大きな目玉企画が3つあり、1つ目は「第1回東城街道 綱引き大会」。地元や広島から4チームがエントリーし、足元の悪い中熱戦を繰り広げました。

2つ目は、超大型「あんどん」（高さ4m、横幅2m）。実行委員が思いを詰め込んで製作し、街道の真ん中に設置しました。これから夜市のシンボルとして、賑わいのある東城の夜を照らします。

3つ目は、子どもたちが遊べる専用の広場「子どもランド」。専用コースを三輪車で走りタイムを競う「三輪車レース」、ボールを投げるか蹴るかでスピードを競う「スピードオリンピック」、特殊な装置で浮かせたボールをバットで打ってのめを狙う「ベースボール」など、実行委員手作りの遊びで、子どもたちを喜ばせました。

えびすイベントステージでは、フラダンスや大道芸で盛り上がり、延べ800人が楽しい夏の夜を楽しみました。



▲盛り上がった綱引き大会

## 火点は前方の標的！ 小型ポンプ操法競技大会

 **REPORT 11**


▲一つ一つの動作をすばやく正確に

消防用小型ポンプの操法技術を競う平成24年度広島県消防協会庄原支部小型ポンプ操法競技大会が8月12日、比和中学校グラウンドで開催されました。

この大会は4年に1度開かれる大会で、「火」と書かれた標的を放水で倒すまでのタイム、ポンプ操法を行う際の動作のすばやさや正確性などを競います。

出場チームは春先から訓練を始め、大会が近づくと多いところ週3回の厳しい訓練に取り組んできました。

当日は、庄原市消防団の7つの方面隊から2チームずつ合計14チームが出場し、これまでの訓練で習得した



▲狙いを定め放水

技術、培ったチームワークを発揮しました。指揮者の号令、各番員の呼唱が響き渡る会場は、緊張感と熱気に包まれていました。

なお、1位に輝いた比和方面隊は、来年開催される広島県大会へ庄原市代表として出場します。

●上位3位の成績は以下のとおりです。

- 第1位 比和方面隊(第4分団)
- 第2位 口和方面隊(第1分団)
- 第3位 東城方面隊(第5分団)

## 若さあふれる舞を披露

### 西城紫水高校が「高校生の神楽甲子園」出演

 **REPORT 7**


▲大舞台上で堂々と舞を披露

西城紫水高等学校の神楽同好会が出演しました。

高校生の神楽甲子園は、神楽に取り組む高校生が自ら運営も行うステージとして昨年から始まり、今年は広島県内を中心に、島根、鳥取、高知、宮崎から全10校が参加しました。

「高校生の神楽甲子園」が7月28日、安芸高田市の神楽門前湯治村神楽ドームで開催され、

紫水高校の神楽同好会は発足して今年で39年目。現在8人の部員が、西城神楽愛好会の指導を受けながら練習に励んでいます。

舞台では、舞い手2人、笛と鐘の奏者2人が、西城神楽愛好会による太鼓の応援を得て「国譲りの能」の演目の一つ「両神の舞」を熱演。会場を埋めた約1,600人の観客から拍手が沸き起こっていました。

同好会の顧問入澤計太教諭は「神楽は地域の文化を伝える伝統芸能であるだけでなく、世代を超えて観る楽しさがある。観客の前で演じる舞台を設定することで、生徒たちの技能、表現、活動の幅も広がっていく」と話していました。

## ギフトの地産地消を進める 「高野の逸品」夏ギフトを販売

 **REPORT 8**

お中元シーズンにあわせて地元特産品を広くPRし、地域経済の活性化を図ろうと、高野の逸品100プロジェクト委員会は、地元農産物を使用した特産品「高野の逸品」夏ギフトを7月17日～8月7日まで販売しました。

このギフトは、昨年のお歳暮ギフトに続いて2度目の企画。今回は、高野地域特産のりんごや夏いちごをふだんに使用した「高野スイーツセット」や、県内最大級の生産量を誇る大根の加工品を詰め合わせた「高野大根食べ比べセット」など、いずれも地元農産物にこだわった4セットを用意。北海道から熊本まで24都道府県へ発送しました。

事務局の檀上理恵さんは「注文者の約6割が庄原市

民の方で、地元の良さを発信するギフトの地産地消を進めることができた。ギフトを受け取られた方が庄原市や高野のファンになってくれたらうれしい。年末のお歳暮ギフトに向け、さらに魅力ある商品を届けていきたい」と今後の意気込みを語りました。



▲生産者も協力して箱詰め作業

## 川のせせらぎとクラシックの共演 第3回鮎の里せせらぎコンサート開催

 **REPORT 9**

第3回鮎の里せせらぎコンサートが7月21日、鮎の里公園で開催されました。

今回は、室内楽やオーケストラの客演奏者として活躍しているフルート奏者の熊谷美保さんと、さまざまなコンクールで受賞歴のあるピアノ奏者の山根浩志さんが、約100人の観客の前で全16曲を演奏。最後の2曲「小さな空」と「見上げてごらん夜の星を」では、二人の演奏に合わせ観客全員で合唱し、楽しい時を過ごしました。

この事業は、クラスターのまちづくり「音の里構想」の一環として、毎年行われています。

主催した鮎の里せせらぎコンサート実行委員会は「癒

しを感じる音の里口和を創造するため、定着させたい」と話しています。



▲コンサート風景